

INDEX

東北地方太平洋沖地震について.....	2
第27回通常総会のご案内（第二報）.....	2
シンポジウムのご案内（第二報）.....	2
第27回全国大会のお知らせ（第二報）.....	3
研究会の開催「テーマ：ICTを使ったインフォーマルラーニング支援」.....	12
研究会の発表募集「テーマ：教える人の実践知・経験知」.....	14
研究会の開催報告「テーマ：学校に対する支援」.....	14
大学教員のためのFD研修会の報告.....	15
産学協同セミナーの中止について.....	15
冬の合宿研究会の報告.....	16
夏の合宿研究会のご案内（第一報）.....	17
第4回日中教育工学研究交流フォーラムの開催延期のお知らせ.....	17
第13期第15回理事会・議事録.....	18
二重投稿と著作権侵害による掲載論文の取消について.....	19
新入会員.....	19

東北地方太平洋沖地震について

会長 永野和男（聖心女子大学）

この度の三陸沖を震源とする大震災により被災された会員の皆様や、そのご家族の方々に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。学会では、特に教育環境面での復旧に関して、英知を絞って支援したいと考えています。一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

日本教育工学会 第27回通常総会のご案内（第二報）

第27回通常総会とシンポジウムを以下のように開催いたします。あらかじめご予約下さい。

1. 日時：2011年06月18日（土） 13:00～17:30（受付12:30より）
13:00～16:30 講演・シンポジウム 21世紀型スキルと教育工学
（詳細は、次記事をご覧ください）
16:30～17:30 総会
2. 会場
東京工業大学 大岡山キャンパス 西9号館 デジタル多目的ホール
東京都目黒区大岡山2-12-1 <http://www.titech.ac.jp/>
○東急大井町線 大岡山駅 徒歩1分 ○東急目黒線 大岡山駅 徒歩1分
3. 総会の議題
第1号議案 2010年度（2010.04.01-2011.03.31）事業報告及び収支決算承認の件
第2号議案 2011年度（2011.04.01-2012.03.31）事業計画及び収支予算案承認の件
第3号議案 会長、理事、監事、評議員の選任の件
第4号議案 名誉会員推薦の件
※通常総会は、シンポジウムの終了後に同会場にて行います。
例年とは時間が異なりますので、ご注意下さい。

シンポジウムのご案内（第二報）

日時：2011年06月18日（土） 13:00～17:30（受付12:30より 終了時刻は総会を含みます）
会場：東京工業大学 大岡山キャンパス デジタル多目的ホール
東京都目黒区大岡山2-12-1 <http://www.titech.ac.jp/>
○東急大井町線 大岡山駅 徒歩1分 ○東急目黒線 大岡山駅 徒歩1分
参加費：500円（資料代）
申込方法：当日受付にて直接お申込下さい。

【講演・シンポジウム：13:00～16:30】

■テーマ 21世紀型スキルと教育工学

■ねらい

「21世紀型スキル」が世界的な注目を集め、その評価方法を検討する「ATC21S」もスタートしました。そこで、本シンポジウムでは、清水康敬氏（東京工業大学）から「21世紀型スキル」の背景や意義、枠組み等をご講演いただきます。また、PISAや情報教育との関わりについてもご解説いただきます。その後、ATC21Sの4つの観点に関連した研究をパネリストにご発表いただき、21世紀型スキルと教育工学研究の接点を探ります。それらを通じて、21世紀型スキルの育成を目指した教育改革の方向性と可能性、それに際して日本教育工学会が推進すべきこと、提言すべきことを議論いたします。

■司会・登壇者

司会：木原俊行（大阪教育大学）

講演者：清水康敬（東京工業大学）

シンポジウム登壇者：

思考の方法の観点から	椿本弥生（公立はこだて未来大学）
コラボレーションの観点から	望月俊男（専修大学）
学習ツールの観点から	稲垣 忠（東北学院大学）
多文化共生の観点から	村上正行（京都外語大学）

【通常総会：16:30～17:30】

（詳細は、前記事をご覧ください）

日本教育工学会 第27回全国大会のお知らせ (第二報)

日本教育工学会第27回全国大会を、下記のように首都大学東京 南大沢キャンパスにおいて開催します。多くの方々のご参加をお待ちしています。また、研究発表にも奮ってご応募下さい。

1. 開催期日・会場

期日：2011年09月17日(土)～19日(月) (3日間)

会場：首都大学東京 南大沢キャンパス 〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

京王相模原線「南大沢」駅，改札口から徒歩5分

<http://www.tmu.ac.jp/access.html>

2. 大会日程 (予定)

第1日 09月17日(土)	第2日 09月18日(日)	第3日 09月19日(月)
09:00～17:00 受付	09:00～17:00 受付	09:00～15:00 受付
10:00～12:00 口頭発表1	09:30～11:30 口頭発表3	09:30～11:30 口頭発表4
12:00～13:30 昼食・各種委員会 企業展示	11:40～13:00 ポスター発表1	11:40～13:00 ポスター発表2
13:30～15:30 シンポジウム1	13:00～14:30 昼食・理事会 企業展示	13:00～14:30 昼食・大会企画委員会
15:50～17:50 口頭発表2	14:30～15:30 会長講演・全体会	14:30～17:00 課題研究発表
18:00～19:30 ワークショップ	15:40～18:10 シンポジウム2	
	18:30～20:30 懇親会	

*プログラム編成によっては、時間帯が若干変わることもあります。また、企業展示が第1日目、第2日目に開催されます。特に昼休みには、ぜひ見学にお立ち寄り下さい。なお、2日目の昼食後には、会長講演が行われます。全体会では、研究奨励賞及び論文賞の表彰等があります。

託児所の提供について

今大会での初めての試みとして、大会期間中、託児所を提供する予定です。料金等、詳細は検討中です。決まり次第、ニューズレター、ホームページ等でお知らせいたします。

東日本大震災の影響について

全国大会は、予定どおり開催する予定です。ただし、計画停電や電力制限などにより、大会の運営に影響が出てくる可能性があります。ポスター発表の枠を増やすなど、上記のセッション構成が変更になることもあります。ご了承下さい。

3. シンポジウム

以下のようなテーマが予定されています。

シンポジウム1

シンポジウム1A

「デジタル教科書時代の新たな学びと指導方法」

コーディネータ：豊田充崇（和歌山大学），益子典文（岐阜大学）

教師用、学習者用のデジタル教科書のあり方について様々な議論が進められている。デジタル教科書導入推進の動きに対し、それらの活用が「言語活動の充実」や協働学習の成果へどのようにつながるのか、そのために必要な指導方法や教師の力量形成をどのように捉えるかについて、教育工学の知見に基づく議論は十分とは言えない状況である。

そこで、本シンポジウムでは、デジタル教科書を活用した授業におけるコンテンツやワークシートなどの教材・教具のあり方、個別学習活動と協働・協調的な学習活動とのかかわりについて、具体的な授業実践事例を取り上げ、教科教育・授業研究を専門とする立場からの提言も踏まえて検討する。その上で、それらを実現する教師の力量についての議論を深めたいと考えている。

シンポジウム1B

「IR(Institutional Research)とその概念を援用した情報分析」

コーディネータ：永井正洋（首都大学東京），北澤武（首都大学東京）

高等教育機関で行われる種々の業務、教育、研究に係るデータを分析・評価すると共にフィードバックし、次段階の取り組みに役立てていく業務や研究は必須だと考えられるが、その方法や携わる人員に

については曖昧であり、これまで、その都度、関係し相当だと考えられる部局や部署がこれにあたってきたと考えられる。一方、米国では、このような業務・研究はIRとして位置づけられ、集中したデータ管理が行われる中で有効に機能している。本シンポジウムでは、米国大学での先行研究を報告すると共に、国内大学での実情や経営的視点を勘案した情報分析の検討及びIRの概念を初等・中等教育の現場での情報分析にも援用することについて議論していく中で、IRの可能性と有効性を検証していく。

シンポジウム2

「グローバルな時代において日本の教育工学は何ができるか」

コーディネータ：大島純（静岡大学）、加藤浩（放送大学）、美馬のゆり（公立はこだて未来大学）

OECDが21世紀のスキルのビジョンを提示し、教育のグローバル化はさらに加速した。労働力は国境を越えて流動可能となり、それを前提とした人材育成が必須となる。これを受けて、日本の教育工学研究は、これまで以上にグローバルな教育のための研究を模索し、国際的に成果を発信し、国策をリードしなくてはならない。こうしたミッションのもと、日本の教育工学研究の現状を議論し、その使命と問題点を洗い出し、新しい方向性を提示する。そのため、異なる研究パラダイムを採用する若手研究者に(1)「グローバルな教育のための研究とは？」(2)「成果の国際的発信」(3)「今後の教育工学への期待」という観点から発表いただく。そして、指定討論者とともに、今後日本の教育工学研究をグローバルに発展させるアイデアを導き出す。

4. 課題研究

公募で寄せられたテーマを含めて大会企画委員会で検討した結果、次の9件のテーマを予定することになりました。発表希望者にプロポーザルを提出していただき、大会企画委員会が発表の可否を決定いたします。各課題について十分に討論することを目的としていますので、発表者は、発表だけで退席することなく、最後の総合討論に参加しなければなりません。この点、ご留意下さい。

■K-1 システム開発・新技術の利用：学びを支援する情報環境のデザイン

コーディネータ：緒方広明（徳島大学）、飛驒信崇（ベネッセコーポレーション）

現在の情報技術は、人々の生活の中に浸透し、様々な活動をサポートしている。また、センサーやRFID等の環境の中に埋め込まれた多種多様なデバイスと連携して、人々の活動を支援する、新しい情報環境の研究開発も進められている。そのような中で、本課題研究では、教育・学習を支援する新しい情報環境や、それを構成するシステム開発のあり方の提案・開発・実践研究を幅広く募集する。例えば、情報基盤技術としては、センサーネットワーク、スマートオブジェクト、拡張現実、モバイル・ユビキタスコンピューティング、ウェアラブルコンピューティング、知能ロボット、エージェントテクノロジーなどがある。これらの技術を用いた（これ以外でも）新しい情報環境が、現実世界で営まれる人の学びをいかに支援できるか、を中心に討論する。

■K-2 学習環境・実践コミュニティのデザイン原則

コーディネータ：大島純（静岡大学）、竹中真希子（大分大学）、舟生日出男（広島大学）

協調学習活動をデザインする際に、道具、目標、イベント、制度、ルール、組織など、諸要素の取捨選択の判断基準となるデザイン原則は、人の学びを捉えた学習理論から導き出され、教育実践事例の分析からその妥当性や一般性が検証される。本課題研究の目的は、そうした原則を確立し共有することである。昨年度に引き続き、協調学習支援システム開発や教育実践事例の報告を、次の基準で採択する：(1) 依拠する学習理論は明確か、(2) デザイン原則の提案や検証が行われているか、(3) 失敗例から成功例への変化が見られるか。ポスターセッションとシンポジウムを融合した、Structured Poster Session形式による発表と議論を通して、個々の事例分析と総括的な分析を同時に行い、デザイン原則を抽象化し系統化することを目指す。

■K-3 システムティックな教育・学習支援システム開発における評価の役割

コーディネータ：柏原昭博（電気通信大学）、室田真男（東京工業大学）

学習・教育支援システムをシステムティックに開発できるようにすることは、工学的に非常に重要である。そのためには、対象とする学習・教育のモデリングが欠かせない。そのモデルは、支援システムの設計原理・ガイドラインを提供するだけでなく、支援システムを漸進的に進化させるための研究基盤を提供する。本研究課題では、こうしたモデルベースのシステム研究における「評価」の役割を議論する。一般

に、システムの評価では、学習効果を求められることが多いが、工学的にはモデル通りの学習・教育の実現可能性や支援機能の可用性・ユーザビリティなどを評価することでモデル/システムの洗練に関する知見を得ることも重要となる。本研究課題では、システムティックなシステム開発を目指す研究、あるいはそれを支える評価を論じた論文を募集する。

■K-4 ICT活用にとまない発生する問題

コーディネータ：田中博之（早稲田大学）、長谷川元洋（金城学院大学）

ICTを有効に活用するためには、その特性についてよく理解し、適切な利用ができる必要がある。そのため、ICT活用にとまない発生する問題についても研究しておくことは重要であるといえる。また、それを踏まえた対策についても研究することも重要である。

本課題研究では、情報モラル教育やネット依存の問題、著作権、個人情報の取扱いなどの法的な問題、情報セキュリティ、情報公開の観点からのICT活用の問題等、ICT活用にとまない発生する問題やその対策等について幅広く取り上げ、検討する。

■K-5 初等中等教育におけるICT活用

コーディネータ：稲垣忠（東北学院大学）、清水悦幸（内田洋行）、森下耕治（光村図書）

初等中等教育の情報化推進に向け「教育の情報化ビジョン」が示された。ICT活用は、提示機器を中心とした整備に加え、デジタル教科書の開発や児童生徒向けの情報端末に関する実証研究が推進されている。一方で情報教育については、「教育の情報化に関する手引き」の中で改めてその位置づけが確認され、新学習指導要領の下、様々な教科・領域において実践が求められている。

本課題研究では、新たな段階を迎える教育の情報化に資する研究について討議する。具体的には、児童生徒向けの端末等を活用した先導的な取組みに関する実証研究、関連する教材コンテンツやハードウェアの開発・評価、情報化の推進を支援する人材・体制についての調査分析等を幅広く対象とする。教育の情報化に対して、教育工学からどのようなアプローチが可能なのか議論を深めたい。

■K-6 教育の質向上に向けたeポートフォリオ活用

コーディネータ：小川賀代（日本女子大学）、永田智子（兵庫教育大学）、森本康彦（東京学芸大学）

近年、高等教育機関を中心にeポートフォリオの導入・活用が急速に進み、黎明期から発展期に移りつつある。しかし、目に見える効果が得られるには時間を要するため、「持続・継続」、「普及（規模の拡大や個人の利用の拡大など）」に向けて加速がつけられないでいる。昨年度の議論において、eポートフォリオが持続的に活用・普及されるためには本質的な効果を明示することが重要であろうとの意見が出された。そこで本年度の課題研究では、初等・中等から高等教育機関における実践研究で得られた研究知見を共有し、「効果」を考究する議論を行うために、eポートフォリオ活用による効果の視点からの実践研究の応募を期待する。また、効果をあげるために求められる機能や活用方法、蓄積データの活用方法、リフレクションの活性化などに関する研究の応募も期待する。

■K-7 FD・高等教育

コーディネータ：黒田卓（富山大学）、鈴木克明（熊本大学）、椿本弥生（公立はこだて未来大学）

2008年度からファカルティ・ディベロップメント(FD)が義務化され、大学における授業改善の取り組みが数多く行われるようになってきた。高等教育の質保証に関する議論も国際的に進展しており、今後、高等教育分野のFDにおける教育工学の役割は、さらに重要になると考えられる。また、この数年、高等教育におけるラーニングセンターやライティングセンターの実践を利用したFDやスタッフ・ディベロップメント(SD)に関する報告も増加しており、教育工学の立場から十分な議論が求められる時期にきていると考えられる。そこで、本研究課題では、各大学やセンター等におけるFD・SDの先進的な取り組みや、今後の展開を想定した理論的な枠組みの提案等についての研究発表を募集する。それらをもとに、高等教育の質保証に関する政策動向等を鑑み、高等教育やFDに対して教育工学は何ができるのか、何をすべきかを議論する。

■K-8 教育工学の教師教育への貢献

コーディネータ：柴田好章（名古屋大学），後藤康志（新潟大学）

教育工学では、その黎明期よりマイクロティーチングや授業分析などの研究が行われ、実践的な教員養成カリキュラムの開発をはじめとする教師教育の改革に寄与してきた。近年では、教師教育や授業研究にICTを活用する方法も開発されている。また、教師の成長を促すワークショップやメンタリングに関する研究も行われている。本課題研究は、このようなこれまでの研究成果の蓄積と広がりにもとづき、教育工学の教師教育への貢献について展望したい。教育工学の成果を適用した教師教育の提案、教師の成長を促す授業研究のツールやシステムの開発、教員養成課程や教員研修プログラムの評価等、幅広い研究を募集する。全体討議では、この分野における学会としての成果の積み上げ方、教育実践的妥当性の確保、研究者と実践者の協同についても議論を深めたい。

■K-9 ゲーム・シミュレーションを利用した教育・学習支援

コーディネータ：山田政寛（金沢大学）

教育工学系領域におけるゲームの教育利用に関する研究への関心は、世界的に高まりをみせており、その傾向は特に2000年代半ば以降の研究論文数の増加に顕著に表れている。ゲームを学習に取り入れることで期待できることとして、学習者の関心や意欲を高めることや、安全な環境で繰り返し学習できること、実践の文脈の中でインタラクティブに学習活動を行えることなどが着目され、さまざまな分野、対象、研究関心での研究が進められている。本学会でも第25回全国大会の課題研究でゲームを利用した教育・学習環境のセッションが設けられた。そこでは積極的な議論がなされ、研究知見の共有と今後のゲームを利用した教育・学習研究を積極的に進めていくことを確認した。本セッションでは、携帯ゲーム機やスマートフォン等を利用したゲーム型教材・学習支援システムの開発、シリアスゲームの開発、ゲームデザインを通じた学習活動、学校教育や企業内研修におけるゲーム利用実践、ゲームを通じた学習の理論的枠組の検討等の研究発表を募集する。ゲーム・シミュレーションをより効果的に学習活動へ導入するための知識を整理し、共通の知識基盤の整備に向けて、このテーマの研究の現状と課題を議論する。

6

5. 一般研究（口頭発表とポスター発表）

一般研究発表は、口頭発表とポスター発表に分かれます。昨年までと違い、口頭発表とポスター発表の時間帯は分かれています。どちらの発表も同じ一般研究発表であり、口頭発表とポスター発表に質的な優劣はありません。発表目的に合わせてご選択下さい。なお、プログラム編成の都合上、口頭発表とポスター発表の発表形式のご希望に添えない場合があるかもしれません。ポスター発表の枠を増やした場合、口頭発表で申し込まれていてもポスター発表になる場合もあります。あらかじめご了承下さい。ポスター発表者は、発表セッションの時間帯は、ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません。

(1) 語学教育・国際理解 (2) 情報教育(情報活用能力の育成等) (3) 教科指導におけるICT活用 (4) メディア教育・メディアリテラシー (5) 教師教育 (6) 特別支援教育 (7) 生涯学習・企業内教育 (8) 看護・福祉教育 (9) 教育評価・データ解析 (10) 授業研究 (11) 授業設計・実践 (12) 高等教育における教育方法 (13) 教育ソフトウェア開発・評価 (14) 学習コンテンツ開発・評価 (15) 遠隔教育・遠隔学習 (16) 知的学習支援システム (17) 認知と学習 (18) 教育メディア (19) e-Learning (20) eポートフォリオ (21) 協調学習と協調作業 (22) ワークショップ (23) ソーシャルメディア (24) その他

6. International Session（口頭発表）

発表及び質疑応答が英語で行われます。本セッションは、教育工学研究の国際化に対応するものであるとともに、特に若い研究者に対しては、国際学会等での研究発表や討論を有意義なものとするための体験を提供する機会でもあります。発表は一般研究の口頭発表のいずれかのセッションと同じ時間帯で行われます。

7. ワークショップ

ワークショップは大会企画委員会が中心となって開催します。このワークショップは、参加者が設定した教育工学に関連するテーマについてインフォーマルに語りあう場です。実践は進んでいるものの研究として認識されていない問題や、新しい情報技術の教育利用などの萌芽的な研究について議論を行っていただくことを考えております。ワークショップは主催者主導で進行していただきます。また、予稿の用意は必要ありません。なおプログラム集には、ワークショップテーマ名・主催者／共催者名・概要が掲載されます。

テーマは公募といたします。大会企画委員会では5-10件程度を想定していますが、会場の関係上応募多数の場合は調整させていただくことがございますのであらかじめご了承下さい。議論を通じて、教育工学

に関心を持つコミュニティが作られ、発展していくことを期待しています。積極的なご応募をお待ちしております。

応募のスケジュール：

6月01日～29日 ワークショップ テーマ受付期間

7月13日 ワークショップ テーマ決定（応募多数の場合、採否結果通知を致します）

応募方法・応募先：

電子メールにて、ワークショップ主催者と共催者の氏名、ご所属、メールアドレス、ワークショップ名と概要（300字程度）を大会企画委員会ワークショップ担当（taikai2011-ws@jset.gr.jp）までお送り下さい。

なお、件名は「ワークショップ応募」として下さい。

8. 発表時間

発表時間は以下の予定です（発表件数に応じて変わる場合があります）。

〔課題研究〕 課題研究の趣旨説明10分 研究発表各15分 総合討論1時間程度

〔一般研究〕 <口頭発表> 発表14分 質疑応答5分（昨年から変更する予定です）

<ポスター発表> 各セッション80分（昨年から変更されています）

昨年と違い、口頭発表とポスター発表の時間帯は分かれています。

〔International Session〕 発表13分 質疑応答5分

9. 発表内容の撮影、録音、録画等について

発表者、参加者の双方に次のことをお願いいたします。

- 1) 発表者は参加者が発表内容を撮影、録音、録画する可能性のあることを承知の上で発表して下さい。参加者に記録されると問題が生じる可能性がある場合には、発表者自身が参加者に記録しないよう指示して下さい。
- 2) 撮影、録音、録画したものについて、日本国の著作権法が規定している範囲以外で利用される場合は、発表者の許可をとって下さい。
- 3) 大会スタッフが記録用写真やニューズレター用写真を撮影します。撮影を拒否される方は、記録係のスタッフに撮影しないようお伝え下さい。

10. 大会までのスケジュール

6月01日	水	ワークショップ テーマ受付開始
6月23日17時	木	課題研究発表申込書・プロポーザル（2～4ページ）提出締切
6月29日	水	ワークショップ テーマ受付締切
7月07日	木	課題研究採否決定通知
7月13日	水	ワークショップ テーマ決定
7月19日17時	火	発表者の参加費事前送金締切（クレジットカード払い、郵便振替共に） 課題研究発表原稿（2又は4ページ）提出 一般研究発表／International Session申込書・原稿（2ページ）提出 ※17時が最終締切時刻となります。原稿の差し替えは、7月26日17時まではWeb上で可能です（電子メールによる差し替えは認められません）。
7月26日17時	火	提出原稿の差し替え締切 （17時厳守。この時刻以降の原稿の提出は一切受け付けません）。
8月23日	火	発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード払い、郵便振替共に） （それ以降は送金しない）

11. 大会への発表申し込み等

(1) 発表者の資格

- ・[発表者]は、本学会の会員に限ります。ただし、会員以外が連名者となることは、差し支えありません。ここでいう[発表者]とは、ファースト・オーサーあるいは連名者という意味ではなく、大会当日発表される方を意味します。この会員には、発表申し込み時に入会される方も含みます。
- ・発表原稿受付の段階で[発表者]が年会費を納入されていない場合には発表原稿を受け付けません。また、[発表者]には、事前に大会参加費を送金していただくことになっております。ご注意ください。発表原稿送付時に、オンラインで年会費等の納入状況がチェックされます。事前に年会費等の納入をお願いします。なお、大会企画委員会が特に発表を依頼した場合はこの限りではありません。
- ・ワークショップの主催者は、事前送金締切までに、年会費、大会参加費を納入されていることが、ワークショップ開催の条件となります。
- ・維持会員に所属する者は、最大3名まで個人会員として加入しなくても発表ができます。発表原稿をオンラインで登録できるようにするために、該当する発表者を事前に登録します。7月16日までに大会企画委員会 (taikai2011@jset.gr.jp) にご連絡下さい。この期限を過ぎた後の受付はできませんので、ご注意ください。

(2) 発表申し込み件数の制限

- ・会員は、[課題研究・一般研究・International Session]に、それぞれ1件（1人合計最大3件）を発表者として申し込むことができます。さらに、ワークショップ1件を主催できます。
- ・発表者でない連名者の件数には、制限はありません。
- ・類似の内容、シリーズ的な内容を複数の発表者に分割して申し込むことはできません。同一発表者が課題研究と一般研究に申し込む場合も同様です。
- ・課題研究は不採択になることがあります。その場合は[一般研究]として申し込むことができますが、既に別の発表を一般研究に申し込んでいる場合には、それを取り下げる必要があります。

(3) 課題研究の発表申し込み方法

課題研究については次のように2段階の手続きが必要です。

1) 第1段階：発表プロポーザルの提出

- ・発表プロポーザルを、6月23日(木)17時までに提出して下さい。
- ・ページ数はA4版2～4ページとします。フォーマットは特に定めておりません。
- ・プロポーザルの提出は、オンライン(Web)受付のみとします。具体的なURLならびに詳しい手続きについては、JSETホームページの大会関係部分でお伝えします。
- ・課題研究に申し込まれた発表プロポーザルにより、大会企画委員会が発表の可否について審査します。発表の可否は、発表内容だけでなく、セッション全体の発表件数も考慮して決められます。
- ・課題研究発表の採否は、7月7日(木)までに申し込み者に連絡します。

2) 第2段階：最終原稿の提出

- ・課題研究に採択された場合、最終原稿を、7月19日(火)17時までに、JSETホームページ大会関係部分から提出して下さい。
- ・ページ数はA4サイズで2又は4ページです。必ず偶数ページにして下さい。JSETホームページ大会関係部分に示される内容に従って作成して下さい。
- ・発表時間の希望には応じられません。

(4) 一般研究およびInternational Sessionの発表申し込み方法

- ・7月19日(火)17時までに、JSETホームページ大会関係部分から原稿ファイルを提出して下さい。事前の発表申し込みはありません。この提出によって発表申し込みとします。
- ・一般研究とInternational Sessionの原稿は共に、A4サイズで2ページです。1ページのものは受け付けません。JSET大会ホームページに示される指定に従って作成して下さい。
- ・発表日時の希望には応じられません。また、発表者及び連名者には、大会企画委員会より「座長」の依頼を受けた場合には、それをご担当いただきますので、予めご了承下さい。

(5) CD-ROMの作成について

今大会も、冊子体のものに加えて、論文本文の文字列検索が可能なCD-ROM (PDFファイル) を作成することになりました。昨年と同様に、ファイル提出時の注意にしたがって提出して下さい。

また、大会原稿の著作権を学会に譲渡いただくことについて今後検討されることが想定されています。この件につきましては、理事会で決定されました時点でお知らせします。

【重要】 原稿ファイルの提出に関するお願い.

論文集の CD-ROM は、論文本文中の文字列の検索が可能になる方法で作成します. このために、次のご協力をお願いいたします.

PDF/X-1a 形式による提出 : (PDF/X-1a 形式の説明は : <http://www.jset.gr.jp/taikai27/>)

PDF/X-1a 形式で提出していただきます. また、PDF だけでなく、元ファイル (MS-Word 形式や一太郎形式のファイル) も提出して下さい. TeX で作成される場合でも、フォントの埋め込み処理が行われていないことがありますので、ソースファイルすべてをひとまとめにして (アーカイブ形式等)、提出して下さい.

【注意】

1. 原稿サイズ A4 版を B5 版に縮小して印刷します. 細い線が消えてしまう場合がありますので、細すぎないように注意して下さい.
2. PDF 作成時に、図表やキャプションの位置が意図しない場所に移動することがあります. 作成した PDF を印刷してチェックしたのち、投稿して下さい.
3. PDF にフォントが埋め込まれているか自信がない場合には、一般的なフォント、文字コードを利用して下さい. 文字コードによっては、検索できない場合もあります.
4. 大会ホームページに掲載される方法に従ってファイルを作成して下さい. 提出していただいたファイルの書式や文字化け等のチェック作業は、大会企画委員会では一切行いません.

(6) 発表取消について

やむを得ない事情で発表を取り消しなされる場合には、すみやかに、大会企画委員会 (taikai2011@jset.gr.jp) までご連絡下さい. その場合には、論文集に原稿が掲載されていても、発表者の業績としてみなすことはできません (学会から提供する発表リストから削除します). なお、ポスター発表については、ポスターを掲示していても発表者が会場にいない場合は、発表取消となりますので、ご注意下さい.

12. 大会の参加申し込み及び受付等について

大会に参加を希望される方は、以下の手順に従って申し込みをお願いします.

(1) 参加費等について

事前に参加費等を送金される場合は、以下の金額を、事前支払期限までに送金して下さい. 事前支払期限は、発表者の場合、郵便振替の場合もクレジットカード支払いの場合も7月19日(火)です. 発表者以外の方は、郵便振替の場合もクレジットカード支払いの場合も8月23日(火)です.

参加費	正・准・名誉会員	2,500円 (当日は4,000円)
	学生会員	1,500円 (当日は3,000円)
	非会員	3,000円 (当日は4,000円)
懇親会費		5,000円 (当日は6,000円)
講演論文集代 (CD-ROM付)		6,000円 (当日も6,000円)
講演論文集の送料 (参加されない場合)		1,000円

学生割引は正規の学生会員に限りです. 非会員の学生は、非会員料金が適用されます.

事前支払期限以降に送金された場合は、当日参加の場合との差額を会場でお支払いいただきます. なお、事前支払期限までに発表者の参加費及び2011年度会費の納入が確認できない場合は、発表は取消となりますので、ご注意下さい.

8月23日(火)までの変更については、大会企画委員会 (taikai2011@jset.gr.jp) までご連絡下さい. 送金なされた分を次年度の年会費に振り替えることができます. 返金はしません. 非会員の場合は入会をしていただくこととなります. この日以降は、変更を連絡いただいても、原則として振り替え等ができないことをご了解下さい.

大会参加費と論文集代を事前に送金したけれども、学会事務局に連絡することなく、大会に参加されなかった場合には、その旨を大会企画委員会 (taikai2011@jset.gr.jp) までご連絡下さい. 論文集をお送りします (送料は参加費で補填いたします). ただし、その差額は返金できません.

卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は、「准会員」に会員種別が変更されています. 学生会員としての特典はありませんので、ご注意下さい.

(2) 事前の送金と参加登録について

会員と非会員で参加費等が異なります。JSET大会ホームページ (<http://www.jset.gr.jp/taikai27/>) の「参加申し込み」ページにアクセスして下さい。その画面で、①正会員・准会員・名誉会員の場合、②学生会員の場合、③非会員の場合を選択できますので、それぞれの場合の説明に従って参加登録と送金手続きをお願いします。

また、送金方法として、3つの方法が準備されます。それらは、①クレジットカードによる支払い、②郵便振替、③当日会場で現金で支払いです。

①「クレジットカードによる支払い」の場合

- ・前述の「参加申し込み」ページで、「クレジットカードによる支払い」を選択して下さい。
- ・ただし、その際には学会から発行してご連絡してありますID・パスワードが必要です。パスワードをお忘れになった場合は再発行いたしますので、大会企画委員会 (taikai2011@jset.gr.jp) に、電子メールでご連絡下さい。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。

②「郵便振替」の場合

- ・会員が郵便振替で送金される場合も、「参加申し込み」ページで、「郵便振替」を選択して下さい。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。その際表示される金額と送金内容を、学会からニューズレターと一緒にお送りする郵便振替用紙に記入して、郵便局の窓口から送金して下さい。なお、必ず会員番号をお書き下さい。
- ・郵便局窓口で送金されてから学会のデータベースに入力されるまで、1週間から10日かかります。
- ・不足料金がある場合、電子メールアドレスがわかる方にはできるだけ事前に連絡しますが、全員にはご連絡できないことも想定されますので、十分ご注意下さい。

③「当日会場で現金で支払い」の場合の事前登録

- ・「当日会場で現金で支払い」の場合でも、参加登録を事前に行っていただきますと、会場での受付が非常に簡便になります。
- ・この場合、「参加申し込み」ページで「当日会場で現金で支払い」を選択して下さい。
- ・その後表示される指示に従って、手続きをお願いします。
- ・登録内容が自動的に電子メールで送信されますので、それをプリントして当日会場受付にお出し下さい。当日参加票に記入する必要がなくなります。

(3) 大会受付票等の送付について

- ・クレジットカード支払い、あるいは郵便振替で事前送金された参加者には、9月上旬までに、「大会受付票」「大会参加証(名札用)」「領収書」を電子メールの添付書類でお送りします。
- ・大会当日は、電子メールで送られた「大会受付票」等をプリントしてお持ち下さい。
- ・ただし、電子メールアドレスが登録されていない会員には、大会受付票等が送られませんので、当日会場に掲示される「事前送金者リスト」で番号を確認の上、その旨お申し出下さい。

13. 会場の設備について

口頭発表のすべての会場で、コンピュータの画面を投影できる設備(プロジェクタ)が利用可能です。また、一部の口頭発表会場では無線LANが利用可能ですが、すべての会場には用意されていないため、インターネットにアクセスできる環境は用意されていないと考えて発表の準備をお願いいたします。なお、貸出用コンピュータやOHP、実物投影装置は用意しません。機器の利用確認は、当該の発表セッション開始5分前までに発表者の責任で完了して下さい。また、コンピュータから音声を流す場合は、スピーカーを発表者自身でご用意下さい。

ポスター発表の会場では、幅90cm・高さ180cm程度のポスター掲示用パネルを用意する予定です。また、パネル前に机(高さ70cm程度)を用意しますので、配布資料やデモンストレーション用のコンピュータ等を置くことが可能です。また、一部のポスター発表会場では無線LANが利用可能ですが、すべての会場には用意されていないため、インターネットにアクセスできる環境は用意されていないと考えて発表の準備をお願いいたします。さらに、電源は用意されていないので、それを前提にした発表準備をお願いいたします。

〒192-0397

東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京 大学教育センター

渡辺雄貴(日本教育工学会第27回全国大会 実行委員会事務局)宛

電子メールでの問い合わせ先:(jset2011-ml@ml.tmu.ac.jp)

14. 企業の展示について

大会期間中、企業による製品等の展示も行います。出展、ならびに大会プログラム等における広告を募集いたしますので、ご希望の方は大会企画委員会企業展示ワーキンググループ (tenji@jset.gr.jp) へお問い合わせ下さい。なお、出展・広告申し込みの第1次締め切りは、5月31日(火)です。

15. 宿泊について

大会実行委員会から斡旋はいたしません。会場周辺の宿泊施設をご紹介します予定です。詳しくは大会Webサイトで掲載する予定です。

16. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせ下さい。

日本教育工学会 大会企画委員会 問い合わせ用電子メールアドレス : taikai2011@jset.gr.jp

日本教育工学会研究会 研究会の開催

<http://www.jset.gr.jp/study-group/>

研究会
2011



テーマ：ICTを使ったインフォーマルラーニング支援／一般

日時：2011年05月14日(土)

会場：金沢大学 角間キャンパス (人間社会第一講義棟)
(〒920-1192石川県金沢市角間町)

担当：山田政寛 (mark@mark-lab.net)

- プログラム 発表時間：発表1件につき24分 (発表19分程度, 質疑5分程度)
A会場(202教室), B会場(203教室), C会場(204教室)

09:25~09:30 諸連絡

09:30~12:00 午前の部

A1) KIT数学ナビゲーションを用いた数学の学習

中村晃 (金沢工業大学)

A2) 英語カウンセリング・ルーム (E-ナビ) による体系的な授業支援

松本佳穂子 (東海大学)

A3) 「情動的な見方・考え方」の観点を取り入れた表計算の指導法と課題解決型ゲーミング教材の検討
— 「式のコピーとセル番地参照」を題材として —

久東光代 (日本女子大学), 松田稔樹 (東京工業大学大学院)

A4) 短期大学におけるマルチメディア・コンテンツを活用したe-learningシステムによる入学準備教育の教育効果

庄内慶一, 杉本雅彦, 小林秀高, 藤田守, 小滝聡 (拓殖大学北海道短期大学),
石原学 (小山工業高等専門学校)

A5) 提案型PBLによる社会人基礎力の向上

— 社会人基礎力育成グランプリの出場を経過して —

酒井浩二 (京都光華女子大学)

B1) 教員養成の質保障と関わる学部と大学院の連携教育に関する基礎調査研究

小柳和喜雄 (奈良教育大学)

B2) 中等教員養成における情報化に対応した授業設計力保証に向けた評価方法の検討

石井奈津子 (芝浦工業大学), 松田稔樹 (東京工業大学大学院), 野村泰朗 (埼玉大学),
小杉直美 (北翔大学), 波多野和彦 (江戸川大学), 玉田和恵 (江戸川大学)

B3) 模擬授業のUstream配信の効果と可能性

西端律子 (畿央大学)

B4) 教授活動ゲームをベースとした教員資質評価システムの実現

— 教職実践演習の導入にともなう履修カルテへの対応策として —

松田稔樹, 石井奈津子 (東京工業大学大学院)

B5) マルチエージェントシステムとコラボエージェントシステムの差異性に関する研究

柏木肇 (電気通信大学大学院)

C1) 「キーボー島アドベンチャー」の利用動向

— 新学習指導要領への移行措置期間中に見られた変化 —

堀田龍也 (玉川大学教職大学院), 高橋純 (富山大学),
大垣厚志, 丸山圭介, 鈴木広則 (スズキ教育ソフト株式会社)

C2) 教員による指導者用デジタル教科書の活用の分析

高橋純 (富山大学), 野中陽一 (横浜国立大学), 堀田龍也 (玉川大学教職大学院),
青木栄太 (内田洋行), 佐藤喜信, 山田智之 (内田洋行教育総合研究所)

C3) 電子教科書活用に関する教員と保護者の意見調査結果

清水康敬 (東京工業大学), 小泉力一 (尚美学園大学), 山本朋弘 (熊本県教育庁),
横山隆光 (岐阜県池田中学校)

C4) 保護者自身が情報モラルを子どもに教えるための教材開発

玉田和恵 (江戸川大学), 松田稔樹 (東京工業大学大学院)

C5) 不登校対応のための連携ネットワークシステムの開発

— スマートフォンを活用した「eカウンセリング」の提案と検討 —

加藤尚吾 (東京女子大学), 荒巻恵子 (東京大学), 西村昭治 (早稲田大学),
加藤由樹 (相模女子大学)

13:00～13:05 委員会挨拶・諸連絡

13:05～15:05 セミナー（A会場）

テーマ：ICTを使ったインフォーマルラーニング支援

講師：山内祐平氏（東京大学）

この度、研究会委員会では、研究会の活性化を図るために、上半期・学会大会前後の研究会などにおいて、教育工学研究の基礎や先進的な研究動向を学ぶセミナーの開催を計画しています。第1弾となる今回のセミナーでは、研究会テーマ「ICTを使ったインフォーマルラーニング支援」に関連して、東京大学大学院情報学環・准教授 山内祐平氏をセミナー講師にお招きし、教育工学研究における位置づけ、研究対象としての面白さや難しさをベネッセ先端教育技術学講座(BEAT)で行われてきた研究事例とともに語っていただきます。セミナー後半はディスカッションを予定しております。

15:15～16:55 午後の部

A6) 高等教育の普遍化と不公式(ノンフォーマル)学習の意義

—京都レッツラン大学校の構築を目指して—

西之園晴夫, 堀出雅人, 望月紫帆(特定非営利活動法人学習開発研究所)

A7) 専門的職能の習得を目指した不公式学習の学習材を開発する方法—経過報告—

堀出雅人, 西之園晴夫, 望月紫帆(特定非営利活動法人学習開発研究所)

A8) 受け入れ現場の要望を反映した日本語作文添削ブレンディッド・ラーニングの構築と実践

藤本かおる, 武田聡子, 長崎清美(特定非営利活動法人日本語教育研究所)

A9) ARCSモデルを活用し企業内で入力操作講習会を開いた実践

柳田明子(東北工業株式会社)

A10) コンピテンシポートフォリオを活用したインフォーマルラーニング支援に関する考察

新目真紀(青山学院大学), 長沼将一(山形大学), 半田純子(サイバー大学)

B6) 共同学習型企業内相互作用体験ゲームの改良と道徳性向上への効果

遠藤信一(東京工業大学附属科学技術高等学校), 松田稔樹(東京工業大学大学院)

B7) 小中学校へのジグソー学習法導入の試みと成果

益川弘如(静岡大学大学院)

B8) 社会人遠隔教育における電子掲示板の活用に関する分析

大崎理乃(クラリオン株式会社), 不破泰(信州大学)

B9) ブレンド型講義に対する評価とその理由

石川奈保子(早稲田大学大学院), 向後千春, 富永敦子(早稲田大学)

B10) 専門知識を協調自律学習で習得するための学習評価の事例研究

望月紫帆, 西之園晴夫, 堀出雅人(特定非営利活動法人学習開発研究所)

- 参加費用：参加費は無料です。研究会報告集の年間予約購読代金(3,500円)を支払済みの本学会会員以外の方は、報告集代として1,000円を当日受付にてお支払い下さい。また、当日受付にて年間予約購読の申し込みも可能です。尚、年会費には研究会報告集の年間購読代金は含まれておりません。
- 交通案内：公共交通機関をご利用下さい。JR金沢駅東口バスターミナル6番乗場から「金沢大学」行きに乗り「金沢大学中央」下車(所要時間35分, 1時間に1~2本運行)。詳しくは、金沢大学Webサイトの「大学紹介」に掲載されている「アクセス」をご参照下さい。
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/university/access/index.html>
- 昼食案内：研究会当日は大学生協の食堂が営業しております(11:00から13:30まで)。大学周辺(徒歩10分圏内)に飲食店、コンビニエンスストアはありません。学内購買は9:00から14:00までの営業です。
- 情報交換会：研究会終了後、金沢市内にて情報交換会を開催いたします。詳細につきましては、後日、研究会Webページに掲載いたします。是非ご参加下さい。

日本教育工学研究会 研究会の発表募集

<ご連絡>この度、急な変更ではございますが、大震災による電力関係・交通機関の状況に鑑みて、当初開催を予定しておりました秋田大学から岐阜大学へ会場を変更いたしました。テーマなどについては変更ございません。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

【テーマ：教える人の実践知・経験知／一般】

日 時：2011年07月02日(土)

会 場：岐阜大学教育学部(担当：今井亜湖)

申込締切：2011年05月01日(日)

原稿提出：2011年05月29日(日)

募集内容：

教育工学ではこれまで授業研究や教師研究等を通じて、教育の方法・技術の構造、その習得や共有、伝達に関する様々な研究が行われてきました。最近ではその伝達のあり様として「メンタリング」にも注目が集まっています。一方で、教育の方法や技術は、教える人の実践経験に拠るもので、伝達することが難しい職人技や名人芸であると捉えられる向きもあります。そこで今回は、教える立場にある人(教員に限らず、コーチ、師匠等も含む)の実践知や経験知の解明、あるいはその伝達や共有に関する研究・実践を幅広く募ります。特に、実践の現場に携わっている方自身による実践的研究も歓迎します。また上記テーマにはこだわらない、教育工学一般における発表も募集いたします。

●発表募集に関して

- ・申込方法：研究会Webページよりお申し込み下さい。(http://www.jset.gr.jp/study-group/)
- ・原稿執筆：締切後1週間以内に、申込時に登録されたアドレスに発表の採択結果と執筆要項を電子メールにて送付いたします。
- ・原稿提出：原稿の提出はPDF形式で、研究会Webページの「発表申込フォーム」より、発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録下さい。尚、期限までに提出いただけない場合は、発表取消となりますのでご注意ください。

■2011年度の研究会(10月～3月)のご案内

2011年	会場大学	申込締切	原稿提出締切
10月29日(土) 変動社会における教員養成と教師教育／一般	島根大学	08月28日(日)	09月25日(日)
12月17日(土) 地域連携と教育・学習環境／一般	香川大学	10月16日(日)	11月13日(日)
2012年			
03月03日(土) 情報モラル教育の実践／一般	山口大学	01月08日(日)	01月29日(日)

日本教育工学研究会 研究会の開催報告

日 時：2011年03月05日(土)

会 場：静岡大学

発表件数：55件

参加者数：127名

「学校に対する支援／一般」というテーマで研究会を開催いたしました。当日は天候にも恵まれ、発表は55件、参加者は127名と近年最大規模での開催となりました。会場では、学校における実践的研究を始め、教師教育に関わる研究や、ICT活用による学校に対する様々な支援研究など、研究テーマを中心として、幅広い研究が発表されました。また、質疑応答時間では、会員非会員にかかわらず活発な議論が行われました。一部、席が不足し立ち見になってしまった会場もあり、大変ご迷惑をおかけしました。本研究会での交流を通して、発表者と参加者、双方が今後とも研究を深めて広げ、革新的で、かつ実社会に役立つ成果が生まれることを期待しています。ご参加いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。

担当：益川弘如(静岡大学)



2010年度 大学教員のためのFD研修会の報告

本研修会は、本学会の知見を活かし、大学教育の授業改善や教員の授業力向上に寄与するため、2008年度から実施している。3回目の今回は2011年3月11日(金)に関西大学東京センターにて「大学授業におけるアクティブラーニングを考える」というテーマで実施した。参加者の構成は、大学教員15名、大学院生1名であった。

午前中は、「アクティブラーニング型授業に関する情報や課題を整理・共有するワークショップ」を行った。参加者を「初年次教育」、「教職課程教育」、「キャリア教育」、「看護・科学教育」のグループに分け、授業内容に共通性を持たせ、議論をより深めるようにした。参加者は、各自の実践(授業名、クラスサイズ、ねらい、授業デザイン、課題等)について報告し、意見を交換した。次に、付箋を用いて、グループごとに授業で抱える課題を整理した。その後、各グループは意見交換のプロセスを紹介しながら、課題を整理した結果について話し合った。例えば、「初年次教育」のグループでは、教員らが学生の学習プロセスを支援するために、ワークシートを用いて授業を行っていたが、「ワークシートをつくりこむことで、学生の高次な認知力を抑制することにならないか」という課題が挙げられた。その後のグループでの意見交換では、学生の学習状況を把握した上で、ワークシートの内容を段階的に変更していくことが必要ではないかなど話し合いがされた。

午後は、溝上慎一氏(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)に「アクティブラーニング型授業の質を高めるために」という題目で講演していただいた。まず、アクティブラーニング型の授業の種類や、その質を高めるための工夫など、「アクティブラーニングの概論」についてお話をいただいた。その後、多人数講義、小規模の講義における具体的な実践事例について紹介が行われ、教育方法だけではなく、「知識と連動したアクティブラーニング型授業を実践すること」の重要性について説明された。最後に、参加者自身のアクティブラーニング型の授業をふりかえることができるように、チェックシートが配付された。参加者は、授業開始時、グループづくり、アクティブラーニングのデザイン、評価などの各項目について実践をふりかえった。

講演後は、各自が授業を改善したいポイントを1つ取り上げ、授業の改善プランを検討した。その後、グループでその共有をし、意見交換を行った。グループメンバーからは、これまでの授業実践や講演内容を踏まえた意見が寄せられた。

以上のように、本研究会では、アクティブラーニング型の授業における課題を整理し、授業デザインを再構成していく一助となるように、講演を拝聴し、各自の課題を解決するよう試みた。当日は東日本大震災が起こったため、研修を一時中断したが、安全が確認できると、参加者は再び研修に熱心に取り組んだ。アンケート結果では、研修内容・講演・形式等の評定平均は、4.2~4.6の範囲内であり、概ね好評であった。今後、参加者には、授業で抱えている課題に対して、本研修での学びを通じて、いかに授業を改善していくのかを具体的に記述するレポートを提出してもらおう。本委員会が招集する評価委員により、参加者のレポートを評価し、学会より本研修を受講したことを証明する認定証を発行する。

最後に、講師として参加していただいたのにも関わらず、すべてのプログラムに参加いただいた溝上先生に改めてお礼を申し上げたい。

文責：岩崎千晶(関西大学)



2010年度 産学協同セミナーの中止について

3月18日に開催が予定されていた産学協同セミナーは、東日本大地震の影響を考慮し、企画委員会メンバーと永野会長が相談して、中止(延期するかどうかは未定)と決定し、学会ホームページで告知するとともに、参加者にも連絡しました。参加を予定されていた会員等にはご迷惑をおかけしましたが、上記の事情ゆえ、ご寛恕いただきたいと存じます。

2010年度 冬の合宿研究会の報告

2月19日(土)14時から20日(日)12時まで、2010年度冬の合宿研究会が「質的データを分析しよう！—質的研究におけるデータ分析入門—」というテーマで、チサンホテル札幌を会場として実施され、講師・スタッフを合わせて34名が参加しました。北海道だけでなく全国各地から参加があり、また、研究者だけでなく現職教員などの参加を得ることが出来ました。

1日目はまず、「質的研究とは何か—質的研究のデザインと方法—」という演題で大谷尚氏(名古屋大学)による基調講演が行われました。講義は、科学的な手続きを踏まえた質的研究の考え方やその特徴、系譜についての解説から始まりました。次に、質的研究の手続きとして、研究的問いの設定、研究デザイン、データ採取(観察や面接の方法)、データ分析(コード化、多段階コーディング、質的データ分析の事例)、理論記述までの5つの段階それぞれについて、その留意点、分析の具体例等が示されました。質的研究と量的研究の相違点、質的研究を実施する際の留意点の解説では、質的研究と量的研究の双方の方法論を学んでおくことの意義が述べられました。さらに、質的研究の一般化可能性、研究を評価する際の視点、実践者が行う質的研究の難しさについて指摘されました。まとめとして、質的研究はヒューマンサービスの分野において実践的なパースペクティブから対象を捉えるために必要な方法論であり、現場に近い社会実践としての教育工学研究を可能にする方法であるとまとめられました。

その後、参加者は5つのグループに分かれ、ワークショップ形式で例題となるインタビューデータ(授業における視聴覚機器の活用や教材開発について、退職された校長先生を対象にしたインタビュー)を元に、大谷氏が開発されたSCAT(Steps for Coding And Theorization)を使用して分析を開始

しました。SCATでは、着目すべき語句の抽出→語句の言い換え→それを説明できるテキスト外の概念→テーマ・構成概念の導出、という4ステップのデータ分析を行った後、ストーリーラインの記述→理論の記述を行います。グループで相談しながらこれらの一連の作業を行い、質的分析の手順や手法を体験的に学びました。

今回のワークショップでは、大谷氏や肥田武氏(名古屋大学)が各グループを回り、分析のためのアドバイスを行いました。このほか、各自がノートPCを持ち寄り、Googleドキュメントを用いてリアルタイムに分析結果を共有しながら討議をすることにより、言葉の抽出・吟味を協同で行うことができました。夕食・懇親会後のナイトセッションでは、ほとんどのグループがワークショップ会場に戻り、分析の続きを行いました。中には深夜0時頃まで熱心に分析を行うグループもありました。

2日目は、前日のグループでの分析を完成させ、ストーリーライン・理論の記述を行うことを目指しました。最終的にすべてのグループが分析を完了し、その結果を報告することが出来ました。各グループによって分析の結果に違いがあり、各グループの報告に対して、フロアから活発な質疑応答がなされました。また、参加者の拍手の大きさによって「最優秀ストーリーライン賞」「最優秀理論記述賞」「最優秀構成概念賞」を決定しました。最後に、宮田仁企画委員会副委員長(滋賀大学)から閉会挨拶が行われました。

参加者の「質的研究の一手法が演習形式で学べて有益だった」「自分のコーディングが適切かどうか、トレーニングを受けることができて良かった」「構成概念の妥当性を質的研究でどのように保証していくかの理論的背景が学べて良かった」「質的分析の大変さ、コーディングの大変さが実際に学べた」といった感想から、大変充実した合宿研究会であったことがうかがえました。

今回の合宿を行うにあたり、ご協力下さいましたすべての皆さんに感謝申し上げます。なお本報告は宮田仁氏、稲垣忠氏(東北学院大学)の協力を得て作成したものです。

文責：金子大輔(北星学園大学)



2011年度 夏の合宿研究会のご案内（第一報）

■テーマ：若手教師の力量形成を支援する授業研究のデザイン

近年、大都市圏を中心にベテラン教師の大量退職時代を迎えています。それに伴い、今後採用が見込まれている若手教師の力量形成を支援する必要性がますます高まっています。こうした状況をふまえ、本研究会では、これまでわが国において取り組みが蓄積されてきた授業研究の営みを、若手教師の力量形成という視点から、改めてその意義や課題を明らかにしたいと思えます。当日は、授業研究や教師教育に関心を抱く研究者はもちろん、若手教師の力量形成を支援する立場にあるミドル・リーダー、指導主事等の教育委員会スタッフ、そして若手教師の方々にもご参加頂き、それぞれの立場から、授業研究への関わり、さらなる充実を実現する具体的な方策について意見を交換し、そのあり方を追究していく会にしたいと思います。

■日時：2011年08月06日(土)13:30～07日(日)12:00

■会場：高知大学朝倉キャンパス（高知市曙町2丁目5-1 <http://www.kochi-u.ac.jp/JA/m/acc.html>）

・電車でお越しの場合、JR土讃線朝倉駅から徒歩3分もしくは土佐電鉄（路面電車）朝倉下車すぐ

（JR高知駅から朝倉駅まで約11分、土佐電鉄高知駅前駅からはりまや橋乗り換え朝倉駅まで約40分）

・飛行機でお越しの場合、高知龍馬空港から空港バス（高知駅前観光）で約50分（朝倉下車すぐ）

■対象：学校教育に関わる実践者（小・中・高等学校、特別支援学校の現職教員等）、研究者、その他

■参加費：1,000円（予定）当日の資料代を含みます（なお、情報交換会の参加費は別途徴収させていただきます）。

■宿泊：宿泊場所につきましては、高知市内のホテル等を各自でご手配お願いいたします。

■プログラムの概要

木原俊行氏（大阪教育大学）から、若手教師等の成長を促す授業研究の方法論やその事例に関する基調講演を頂きます。それに引き続いて、本研究会のテーマに関連する授業研究の取り組みを行なっているいくつかの学校等から実践報告を頂きます。これらをもとにして、若手教師の力量形成を促す授業研究の企画・運営について、ワークショップ等を通じて、参加者間で議論を深めたいと思えます。2日目には、ワークショップ等で交わされた議論を全体で共有し、今後求められる授業研究のデザインについて総括します。なお、1日目には、情報交換会を予定しております。

■開催担当・問い合わせ先：

島田希（高知大学教育学部附属教育実践総合センター）[mail:nshimada@kochi-u.ac.jp](mailto:nshimada@kochi-u.ac.jp)

*詳細及び参加申し込みは、6月以降に日本教育工学会Webサイトにてご確認ください。

第4回日中教育工学研究交流フォーラムの開催延期のお知らせ

会員の方の中にも直接・間接に被災されておられる方が大勢おられると思いますが、3月11日に発生した東日本大震災の被災者・被災地に衷心よりお見舞い申し上げます。

さて、前報でお知らせしたように国際交流委員会が準備してきました「第4回日中教育工学研究交流フォーラム」の開催を1年延期致します。現在、東日本大震災並びにその後の原発事故、電力不足などの混乱により、大学行事なども大幅に変更されることになっており、正常な活動に戻るには、まだ数ヶ月の月日が必要な見通しです。3月15日には中国教育技術協会会長名で本学会会長宛に東日本大震災の見舞い状も届けられ、本研究交流フォーラムの開催の可否は本学会の判断に委ねる旨、伝えられました。迅速な見舞い状送付に見られるように東日本大震災と続く原発事故は、海外でも極めて大きな関心事となっております。

本委員会は開催可否の検討を続けた結果、3月25日に開催の1年延期を決定し、会長にその旨報告しました。その後、会長名で中国側へ見舞い状の答礼と研究交流フォーラム開催の延期を伝えたところ、翌日には中国教育技術協会会長名で延期に賛同する旨、回答がありました。

国際交流委員会委員長 赤堀侃司
担当委員 近藤 勲

第13期第15回理事会(メール審議)・議事録

日時：2011年03月19日(土)～04月02日(土)※

場所：※震災の影響により、電子メール等を利用した電子会議

出席：(理事) 永野和男会長、永岡慶三副会長、山西潤一副会長、大久保昇、小柳和喜雄、黒上晴夫、向後千春、澤本和子、清水康敬、南部昌敏、東原義訓、堀田龍也、宮田仁、室田真男、山内祐平、吉崎静夫、村川雅弘、赤倉貴子、赤堀侃司、植野真臣、木原俊行、三宮真智子、野嶋栄一郎、前迫孝憲、矢野米雄(全員)

(監事) 近藤勲

理事会の日時に先立ち、東日本大震災の影響で対面による理事会が開けなくなったため、期間と手順を決め専用MLを利用して理事会を実施したい旨の提案があり、了承された。

その後、参加表明の問い合わせが送られ、全員から応答があり、すべての資料をPDFで配布し、専用MLで意見交換し、承認確認を行うことで、今回の理事会を実施することになった。

- 1 第13期第14回議事録を、承認した。
- 2 会員の移動について承認した。
- 3 各種委員会報告について
 - (1) 編集委員会
論文誌の発行予定等が承認された。
 - (2) 研究会委員会
 - 1) 平成22年度の活動実績と収支決算報告について報告された。
 - 2) 発表キャンセル者への対応の変更について報告された。
 - 3) 7月2日(土)の研究会は、秋田大から岐阜大に会場を変更することが承認された。2011-2012年度の研究会開催日程および会場校の案が提案され、了承された。
 - (3) 企画委員会
3月18日(金)開催予定であった「産学協同セミナー」を中止したことが報告された。
 - (4) 国際交流
中国との協議により日中教育工学研究交流フォーラムの開催を中止することが承認された。
 - (5) 選挙管理
2011年度役員選挙結果について承認された。
 - ・会長：永野和男(聖心女子大学)
 - ・理事(12名)：赤倉貴子(東京理科大学)、大谷尚(名古屋大学)、大久保昇(㈱内田洋行)、小柳和善雄(奈良教育大学)、加藤浩(放送大学)、久保田賢一(関西大学)、鈴木克明(熊本大学)、中原淳(東京大学)、中山実(東京工業大学)、東原義訓(信州大学)、美馬のゆり(公立はこだて未来大学)、宮田仁(滋賀大学) 次点：室田真男(東京工業大学)
 - ・評議員(5名)：木原俊行(大阪教育大学)、黒上晴夫(関西大学)、向後千春(早稲田大学)、三宮真智子(大阪大学)、堀田龍也(玉川大学)
 - ・監事：近藤勲(元岡山大学)
 - (6) 広報委員会
ニューズレターの発行状況に関する追加資料および台割案が了承された。
 - (7) 事務・統括
本年度からネットワークシステムを使って会計を一元管理し、より細かな仕分け集計できるようにしており、今年の決算報告の形式と来年度の予算項目は若干異なる形式で準備していること、2月・3月に集金していた2011年度会費は、2011年度収入に移行する予定であることが報告された。

二重投稿と著作権侵害による掲載論文の取消について

編集委員会

1. お知らせ

日本教育工学会論文誌に掲載された以下の論文が二重投稿と著作権侵害（盗用）が2か所あることが判明しましたので、二重投稿等に関する特別委員会を設置し調査した上で、編集委員会と理事会で慎重に審議した結果、この論文の掲載を取り消しましたので、お知らせします。

小林祐紀，中川一史：「教師の信念を実現するためのストラテジーの関係性の研究」

日本教育工学会論文誌 32巻2号 109-118ページ, 2008

- ・この件に関する経緯と著者に対する処分については、学会ホームページJSET NEWSで説明していますので、ご参照ください。 http://www.jset.gr.jp/news/news_20110214.html
- ・本学会では、過去の論文誌の販売を外委託していますので、この論文を32巻2号から削除した新論文誌を100部印刷して委託先に届けました。なお、この経費180千円は学会で負担しました。
- ・ただし、既に会員にお送りした論文誌を回収し、新論文誌をお送りすることはいたさないことになりました。学会の経費負担が大きいことからご理解をいただきたくよろしくお願いいたします。
- ・情報学研究所NIIが提供している論文データベースから、当該論文を削除していただきました。
- ・学会会員専用ページから検索できる本学会の論文リストからも削除しました。

なお、二重投稿の対象論文間では著者の順番が異なるなど、上記の論文投稿に際した査読過程においては、これらの問題を発見することは難しかったことを特別委員会で確認したとはいえ、二重投稿と著作権侵害がある論文が掲載されてしまったことはたいへん遺憾であります。

2. 会員にお願い

今回の件を踏まえて、今後投稿される際には、以下について十分注意して下さい。

- ・本学会では、投稿規程に示しているように、他の機関誌に掲載された論文を投稿することを禁じています。
- ・本学会論文誌に掲載された論文を、他の学会等に投稿することも禁じています。
- ・分野によっては、大学紀要に掲載された論文を受け付ける場合もありますが、本学会では創立以来、大学紀要に掲載された論文は掲載しないこととしています。
- ・適切な引用の要件を超えて、他の論文や書籍の文をそのまま書くことは盗用にあたり、原文の著者の著作権を侵害したことになります。これは、外来語のカタカナを日本語（漢字）に書き換えたとしても同様です。

3. 今後の検討課題

編集委員会としましては、論文投稿に関連した倫理規定を策定するなど、種々の検討を行って、今後、二重投稿と著作権侵害が二度と起きないように会員に周知徹底する所存です。

（参考）本学会論文誌の投稿規定における投稿の条件

「内容の主要な部分が、国内、国外の学会誌、機関誌、商業誌等に掲載済み、掲載予定、あるいは投稿中や投稿予定でないこと。ただし、研究会、大会等の学術講演、国際会議等における口頭発表論文をまとめて投稿したものは差し支えない。」

新入会員

(2011年01月21日～2011年03月15日) 13名 (正会員：7名, 学生会員：5名, 准会員：1名)

■正会員 7名

田中真帆 (愛知啓成高等学校)
中山誠一 (城西大学)
阿部智美 (宮城大学)
高嶋章雄 (東京工科大学)
犬塚美輪 (大正大学)

田村修一 (北里大学)
安藤友晴 (稚内北星学園大学)

■学生会員 5名

下地貴樹 (九州大学大学院)
平川俊功 (東北大学大学院)

猪原敬介 (京都大学大学院)
殿村貴司 (東京理科大学大学院)
中村 潤 (東京大学大学院)

■准会員 1名

Chu Hui Chun (Soochow University)

◎学会日誌

- ・ 2011年05月14日(土)
研究会「ICTを使ったインフォーマルラーニング支援」
(金沢大学)
- ・ 2011年06月18日(土)
第27回通常総会及びシンポジウム
「21世紀型スキルと教育工学」(東京工業大学)
- ・ 2011年07月02日(土)
研究会「教える人の実践知・経験知」(岐阜大学)
- ・ 2011年09月17日(土)～19日(月)
第27回全国大会(首都大学東京 南大沢キャンパス)
- ・ 2011年10月29日(土)
研究会「変動社会における教員養成と教師教育」
(島根大学)
- ・ 2011年12月17日(土)
研究会「地域連携と教育・学習環境」(香川大学)
- ・ 2012年03月03日(土)
研究会「情報モラル教育の実践」(山口大学)

◎国際会議の案内

2011年

ED-MEDIA 2011

<http://www.aace.org/conf/edmedia/>
(6/27-7/1 Lisbon, Portugal)

CSCL 2011

<http://www.isls.org/cscl2011/home.htm>
(July 4-11, Hong Kong, China)

CATE 2011

<http://www.iasted.org/conferences/home-734.html>
(July 11-13, Cambridge, United Kingdom)

E-Learn 2011

<http://www.aace.org/conf/eLearn/>
(10/17-21, Honolulu, Hawaii)

Mlearn 2011

<http://www.mlearn2011.org/>
(10/19-21, Tokyo, Japan)

ICCE2011

<http://www.nectec.or.th/icce2011/>
(11/28-12/2, Chiang Mai, Thailand)

お問い合わせ先 E-mail

- 論文投稿に関するお問い合わせ
編集委員会 editor@jset.gr.jp
- 研究会の開催についてのお問い合わせ
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp
- 全国大会の開催についてのお問い合わせ
大会企画委員会 taikai2011@jset.gr.jp
- 合宿研究会やシンポジウムの開催についてのお問い合わせ
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp
- ニュースレター編集に関するお問い合わせ
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp
- その他のお問い合わせ
学会事務局 office@jset.gr.jp

広報委員会

編集長：清水康敬(東京工業大学)
担当副会長：永岡慶三(早稲田大学)
広報委員長：赤倉貴子(東京理科大学)
幹事：伊藤剛和(奈良教育大学)
委員：永田智子(兵庫教育大学)、皆川武(目白大学)、
宮田仁(滋賀大学)
E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●

日本教育工学会事務局
〒141-0031
東京都品川区西五反田1-13-7マルキビル
TEL&FAX 03-5740-9505
E-mail：office@jset.gr.jp
<http://www.jset.gr.jp>
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニュースレター
No. 178
2011年5月4日

発行人●会長 永野和男(聖心女子大学)